

Urban Design Lab Magazine

2011 年度日本建築学会大会 ー 昨年の成果を早稲田大学にて発表ー

Architectural Institute of Japan Annual Meeting 2011 –Presentation of the Accomplishment at Waseda Univ.–

去る8月23日～25日の3日間、早稲田大学にて日本建築学会大会(関東)が開催されました。その模様を、都市デザイン研マガジン初代編集長酒井憲一さんにレポートしていただきます！ text_kitagawa

圧倒された研究室陣の建築学会学術講演 ー 鞆の「押し車」にはエクステリアウッド性ー

都市デザイン研マガジン
初代編集長酒井憲一

8月23日(火)から3日間、早稲田大学で開かれた2011年度日本建築学会大会は、毎日通い詰めて聴講した。工学部都市デザイン研究室で主として都市美とまちづくりプロジェクト、農学部生物材料物理学研究室でエクステリアウッド(EXW)を研究テーマにしたため、聴講も都市計画から観光、木材関係まで数セクションにわたった(※)。工学部時代は、西村教授の「都市保全計画」「都市設計特論第1」、北澤助教授(当時)の「都市デザイン概論」を皆出席で受講するとともに、ハノイ研究室旅行、北澤助教授の現地指導を受けた大野村、新宿西口から夜行バスで院生と赴いた鞆の東大基地参加が忘れられない。そして、膨大な研究室活動を内外に発信し、データを蓄積していく都市デザイン研マガジンを初発行した。

以後、マガジンは情報の宝庫になり、多様な切り口で検索できるメディアになった。エクステリアウッドについても、117号で藤井高広修士論文「都市部における工事現場の板囲い」が載っているのを見つけ、すぐに菊地原編集長を通じて梗概を送ってもらった。その論文の外囲いはエクステリアであり、私は農学部でその木製に特

化した領域研究をしていた。

建築学会の学術講演は、プログラムを熟読し、研究室陣の講演を逃さずフォローしようと計画を立てた。それは23日の「ルンビニ」から始まり、25日は、鞆3題を聴いてすぐに隣室に移って、足助・佐原に耳を傾けたあと、永瀬助教の司会による他大学の発表を最後まで聴いた。建築学会では私も何回か発表しているの、そのときの回想も手伝って、聴講することで高揚した。「ルンビニ」は、黒瀬助教のマガジン記事で詳細な予備知識を得ていたの、うなずきながら聴いた。鞆の「祭事」「茶屋蔵」などもマガジンで知識を得ていたの、手にとるように理解できた。圧巻は足助の「まちなか社会実験」3発表で、院生、助教、准教授まで総出の情熱には頭が下がった。佐原の回遊性向上は、「ぐるぎ+」のモットーをはじめ、つとにめざましい着想のまちづくり活動をマガジン記事で評価していただけた、これまた感動した。

エクステリアウッドと関連して、私の印象に強く残ったのは、鞆の漁労と生活空間の関係についての研究(西村裕美院生)だった。そこでは、魚をさばいて移動販売するツールとしての「押し車」を主役とした論旨に驚いた。押し車は乳母車ぐらいの大きさで、私も現地でおばさんが押してきて、まな板で魚類をさばいて売っているのを見たことがある。この押し車の構造は鉄製であるが、まな板や木箱などを載せることで、エクステリアウッド性を帯びる。そのうえ、押し車は「自然に人が集まり会話が生まれるという点において、コミュニティの核の一つであり、鞆の生業に根ざしたインフラとして機能している」という結論は、エクステリアウッド全般に対する鼓舞ではないかと我田引水に受け取り、梗概に載っていなかった押し車の写真をネット検索で補強し、農学部の研究室に速報した。
※エクステリアウッドは木製の外構・仮設構造物で、木の門柱、門扉、塀、柵、ベンチ、野外卓、標識、デッキ、ボードウォーク、舞台、棧敷、小屋、屋台などを指す。



▲マガジン初代編集長酒井憲一さん



▲押し車でコミュニケーション

発表者一覧 (敬称略)

日付	発表者	題目	
8/23	櫻庭敬子	大都市近郊の移民集中地域における多文化共生の拠点に関する研究 埼玉県川口市の移民を支える都市施設に着目して	
	尾瀬敦祐	地方小都市における中山間地型まちづくり基本方針の検討 福島県田村市都路地域を事例として	
	竹田恵利加	地方小都市における自律型まちづくり体制に関する研究 福島県田村市大越地域の大学協働まちづくりを事例として	
	神原康介	新宿区筆筈地区のまちのネットワークが地域包括ケアに果たす役割 都心部高齢者に対する支援主体の関わり方に着目して	
	V・ボンサン	中国の歴史的な町並みにおける観光イベントを通じた考察 西塘の国際低炭素生態灯光芸術展を事例に	
	矢吹剣一	高山市農山村集落における地域マネジメント計画に関する研究 その1 一色惣則地区におけるマネジメント計画立案について	
	李璠	高山市農山村集落における地域マネジメント計画に関する研究 その2 集落マネジメント計画に向けての協働型立案手法について	
	高見亮介	高山市農山村集落における地域マネジメント計画に関する研究 その3 一色惣則地区(集落)における水路調査	
	李峰浩	途上国における地域開発と文化遺産の保全に関する研究 ネパールのルンビニ開発計画を事例として	
	宋俊煥	開発進行地区における駅前空間の段階的な整備・活用に関する研究 柏の葉キャンパス駅周辺における市民・大学 参画型の取り組み	
	8/24	松井大輔	神楽坂花街における歴史的建造物の残存状況と花街建築の外観特性
	8/25	阿部正隆	戦前における地方計画論の到達点 地方計画仮法案・関東 地方計画要綱案の策定
安川千歌子		祭事と都市空間の関係性の把握と考察 港町・鞆における 地域資源の発掘と利用を目的とした調査と実践(その1)	
西村裕美		生業としての漁労にみられるネットワークと生活空間の関係性 港町・鞆における地域資源の発掘と利用を目的とした調査と実践 その2	
内藤康介		「茶屋蔵」の修復・活用整備による再生に向けた取り組み 港町・鞆における地域資源の発掘と利用を目的とした調査と実践 その3	
永瀬節治		生活空間資源を活かしたまちなか観光戦略「うちめぐり」の考え方と枠組み 足助における観光と生活の融合をめざしたまちなか社会実験 その1	
前川綾音		「うちめぐり」における回遊行動と来訪者による評価 足助における観光と生活の融合をめざしたまちなか社会実験 その2	
窪田亜矢		「うちめぐり」に対する地元協力者による評価と今後の展望 足助における観光と生活の融合をめざしたまちなか社会実験 その3	
江口久美		パリの都市景観におけるピトレスクの意味に関する研究 第二帝政期を対象として	
木口彩		サインによる準回遊空間への誘導の可能性と課題 歴史的町並み・佐原における回遊性向上に関する研究 その4	
吉田健一郎		空間資源を活かしたまちを楽しむ方法の検証 歴史的町並み地区・佐原における回遊性向上に関する研究 その5	
村本健造		重伝建地区を中心とする観光徒歩圏の実態把握と分析 歴史的町並み・佐原における回遊性向上に関する研究 その6	
関谷進吾		欧州主要都市における都市情報発信拠点	
小島良輝		北沢猛の都市デザイン思想に関する研究 アーバンデザインセンターを中心に	

留学生コーナー第13弾！

An Essay by International Student vol.13

My Favorite Town in Japan, Asuke.

When editor of our magazine asked me to write something about my favorite Japanese town, it is a chance for me to review my experiences in Japan. Since I was born and brought up in Chinese cities, my only experience of living in small town was a 2 weeks' training course of watercolor painting as an architecture student. Thus frankly saying, I paid no attention and did not realize that it is also important to look at those people's life in small towns until I came to Japan and join this lab.

According to my experience, it is difficult to understand the beauty of Japanese small towns if we only visit as a tourist, since there are much more well-preserved historical towns in other counties. But with my attendance to projects in our lab, I had a chance to get much closer to those small towns and people who lives there, especially the town Asuke as a start point for me.

It is a town once vivid as a Shukuba-machi (inn town) in the old "Chuma" Road. What attracted me first is its close relationship to the nature around and with no clear boundary. But after modern road constructions, the town and its famous nature site (Koran-kei) was divided by a road and lost their close connection, also the town lost its function as a Shukuba-machi, only Koran-kei still calls people to visit during fall season for its beautiful maple.

The people of town create the Koran-kei, but they also have strong willing to keep their old town.

After I joined the project and had a chance to listen to their talks, it is so unbelievable that people love their town so much and want to help to conserve the town. Everywhere in the small town, I can feel people's love and effort to their own town, and it is my favorite part of Japanese town.

多国籍な都市デザイン研の特徴を生かし、長年住んでいると気づかない日本の都市の姿を留学生の新鮮な目で伝えます。第13弾は、中国出身のD3 傅 舒蘭さんです！

D3 傅 舒蘭



▲小沢家でお話を聞く



▲街角のたんころりん

プロジェクト報告

ウォーターフロント勉強会・五箇山中間報告会開催

Study Session about Waterfront & Presentation of Interim Report in Gokayama



清水 SHIMIZU-project

text_kitagawa

9月2日(金)、日本大学お茶の水キャンパスにてウォーターフロント開発の専門家である日大の横内憲久先生によるレクチャーが行われました。内容は、港湾法等の法制度から具体的な開発事例まで、ウォーターフロントを開発する上で必要な知識を90分にわたり話して頂きました。久しぶりの講義で充実した時間を過ごすことができました。こうした専門知識がない私にとってはとても興味深いお話ばかり！その中でも、「ウォーターフロントは港湾施設が見えるからこそ面白い」というお言葉が今でも強く印象に残っています。



▲レクチャーを熱心に聞くメンバー達



五箇山 GOYAMA-project

text_omori

9月8日(木)、五箇山に西村先生を招いて、住民に向けての中間報告会と、相倉・菅沼の合同住民会議を行いました。前半では両集落の代表から今までの住民会議の結果報告と、私たち学生の方から資源調査などの報告を行いました。後半では集落空間の捉え方について西村先生からレクチャー、その後住民による意見交換会となりました。意見交換会ではあまり活発な意見が出ず、他の集落には口を出さないという同地の特色が表れていたなと感じましたが、最初の合同住民会議から活発な議論が生まれることのほうが稀有であり、気長に取り組んでいかなければと決意を新たにしました。山間集落特有の過疎という問題を、どのようにして解決していくか、先生は白川郷と妻籠、竹富島の例を示されましたが、他の事例を参考に、何か解決の緒を見出していければと思います。



▲集落空間の特徴を語る西村先生



▲多くの住民が集まりました！

Information

APSA (アジア都市計画系学部連合) 第11回大会開催!!

テーマ: Planning for Sustainable Asian Cities



9/19、APSA 開会式の一環として、安田講堂で安藤忠雄氏講演会「都市と建築」も開催されます。申し込み不要、無料でどなたでもご参加いただけます。お楽しみに！

日時 9/19 - 9/21

会場 東京大学

同大会はグローバル化時代のアジアの諸都市に対して、将来の持続可能な再生に向けた、リ・プランニングについて考えていこうとする学会大会です。

9月の予定

9月10～12日 荻PJ現地調査

9月15～18日 高山PJ現地調査

✧ 編集後記

北川 貴巳

9月になりました。みなさんいかがお過ごしですか？私の周りの友人は海外へ渡航してしまった人が多く、少し寂しい気分です。私はアメリカの西海岸に行きたいと思っていたのですが、偶然友達が現在行っておられて…。計画を立てる時間がなかった自分にとってはとても羨ましい限りで、SNSによる情報もいちいち反応してしまいがちです。自分の計画性のなさに深く反省したのでした…。